

令和元年度第4回吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議における委員意見一覧

No.	意見種類		議題	資料番号	該当ページ	意見	修正(案)、考え方など
	1 修正	2 追加					
1	4	その他	2 北千里小学校跡地複合施設への木材利用について	2-2	1	屋根にCLTを使うとのことであるが、チャレンジングな部分もある。具体的には雨水への対処の問題である。特に、どうしてもフチの部分に水が当たってしまうという問題がある。また屋根に降った雨水をどう排水するのかが問題もある。木は水に弱い材料なので、この部分への対処が重要となる。	雨水対策については、金属屋根部分をCLT小口まで巻き込む方法などの対応策を検討しています。また、雨水排水はCLT上部の金属屋根部分に樋を設け、排水する予定です。
2	4	その他	2 北千里小学校跡地複合施設への木材利用について	2-2	1	図書館部分の閲覧スペースの天井のCLTについて、準不燃化の観点からCLTに化粧木質ボードを施すとのことであるが、コスト上昇してしまう。木材利用の継続性という観点からは、無理に木材を使うことでコストが上昇してしまうよりも、合理的な範囲で無理なく木材を使う観点が必要である。ただ、今回はモデル施設という位置付けの中で一部象徴として使うなら問題ないが使う際の位置づけ等を明確にしておく方が良い。	御指摘を踏まえ、木材利用のモデル施設としての位置づけを踏まえつつ、どのような形で合理的な範囲で無理なく木材を利用できるのかについても留意しながら、今後検討します。
3	4	その他	2 北千里小学校跡地複合施設への木材利用について	2-3	1	構造比較検討について。木造の中での複数パターンでの比較がなされていない。兵庫県林業会館ではそういった比較を行っている。可能であれば、そういった比較もあっても良かったと思う。	御指摘を踏まえ、現在検討している集成材柱+CLT屋根に加えて、RC柱+CLT屋根や鉄骨柱+CLT屋根のパターンでの比較についても検討します。
4	4	その他	3 北部消防庁舎等複合施設の進捗状況について	3-1 3-2	資料全体	基本設計において、木材利用に関してどのような検討がなされているかを教えて欲しい。	基本的な方針に「国産の内装材等で木質化を図る」と掲げており、特に教育センター部分の内装材を中心に木材利用を行うよう検討しております。

令和元年度第4回吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議における委員意見一覧

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	議題	資料 番号	該当 ページ	意見	修正（案）、考え方など
5	4 その他	3 北部消防庁舎等複合施設の進捗状況について	3-1 3-2	資料全体	北部消防庁舎等複合施設の木材利用方針について、依然、資料で示されていないのが心配。モデル施設の木材利用に関して検討を進めていくという会議の設置趣旨を踏まえ、来年度の早期には、検討可能な段階の資料を出して欲しい。本来、木材利用の方向性は基本設計で決めてしまうものなので、実施設計後となると、すでに方針が固まってしまっているのではないかと不安を感じる。	基本設計段階における方向性としては、教育センター部分の内装材を中心に木材利用を行うよう検討しております。来年度の実施設計段階においては、より具体的な検討を進めていき、お示しできる段階で提示したいと考えております。
6	2 追加	4 ガイドライン骨子（案）について	4	6	歩留まり向上や1等材のような節のある材も使う話は、設計段階にも関係する話なので、そういった部分に盛り込む必要がある。	御指摘を踏まえ、4-（3）-「カ 留意事項」として、以下の内容を追加します。 【修正案】 4-（3）-カ：歩留まりの向上を図ることや、1等材の様な節がある木材を普通に使用していくことは、木を無駄なく使い切ることやコスト抑制の観点から重要です。そのため、設計段階から辺材や心材の双方を使えることや1等材も使えることに配慮して設計を行うことが必要です。
7	1 修正	4 ガイドライン骨子（案）について	4	3-4	2（2）ウ（ウ）bの地球温暖化防止の話ではエネルギーの話を中心に言及されているが、木材がカーボンニュートラルな材料であるという話があまり言及されていない。そういった観点からの言及が必要である。	御指摘を踏まえ、以下のとおり修正します。 【修正案】 2-（2）-ウ（ウ）-b-（a）：木はCO ₂ を吸収し、成長過程で炭素（C）として体内に蓄えられる働きがあります。木が木製品や住宅として利用される間もその炭素は蓄えられます。また、木をバイオマスエネルギーとして燃やしてCO ₂ を排出しても、森林の成長過程で再び木に吸収されることとなります。この様に、木は大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えないカーボンニュートラルな材料であると言えます。人工林でこの機能を発揮するには、「伐って・使って・植えて・育てる」森林の循環利用によって健全な森林を維持することが欠かせません。

令和元年度第4回吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議における委員意見一覧

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	議題	資料 番号	該当 ページ	意見	修正（案）、考え方など
8	1 修正	4 ガイドライン骨子（案） について	4	5	4（2）アに「実績がある設計者を選定するために・・・」と言及されているが、技術やノウハウがある設計者を選定したいはずであるので、「実績がある設計者を選定するために・・・」ではなく、「技術やノウハウがある設計者を選定するために・・・」とした方が良いのでは？	御指摘を踏まえ、以下のとおり修正します。 【修正案】 4－（2）－ア：・・・。地域材利用の木造建築物では意匠・構造・防耐火設計が複雑で精通した設計者が少ないこともあり、企画・提案力のある設計者を選定するために、原則、プロポーザル方式を採用します。 4－（2）－イ：原則、地域材の活用について対応できる事業者（企画・提案力がある等）であることを入札参加要件に加えます。
9	1 修正	4 ガイドライン骨子（案） について	4	5	4（2）アについて、「実績がある設計者を選定するために」という文言が設計者からみたら引かかる表現であると思うので、「実績がある設計者を選定するために」⇒「企画・提案力のある設計者を選定するために」に変更してはどうか？ 4（2）イについても同様に、事業者（実績がある等）⇒事業者（企画・提案力がある等）に変更してはどうか？	
10	4 その他	4 ガイドライン骨子（案） について	4	資料全 体	木材利用の意義づけの方法の一つとしてCO ₂ 固定認証の考えを盛り込んでどうか。概算での固定量の算定であれば、国際的に出されている方法で実施可能であるので、市自身でも可能だとは思うが、より客観的な方法として、第3者機関による固定認証の方が望ましいと思う。	御指摘を踏まえ、CO ₂ 固定認証の考え方をガイドラインに盛り込むのかどうかについても、今後検討します。
11	4 その他	2 北千里小学校跡地複合施設への木材利用について	2-2	資料全 体	CLTを使うのであれば、他の木材との違いを出せるような部分に使うのがよい。今回の案で言えば、屋根でフラットスラブ的に使うのであれば、CLTの特色も出せる。見た目やデザイン的にもCLTでないと出来ないようなインパクトのある使い方がよい。 実際の所、CLTを使うと他の木材よりもコストが高くつく。今回のように屋根をCLTにした場合、全体に与える影響としては2%程度のコスト上昇につながる可能性がある。確かに費用が高くなるが、木材利用促進や山を守ることを見据えて未来型のCLT活用を公共として率先して行っているという考え方に立って使うこともできるし、補助金の活用も可能である。 さらに、CLTは材料としては高くなるものの、施工は短く済むことから、人件費圧縮につながる。特に欧米などでは職人の日給が8万円のところもあるので、施工期間圧縮に伴うコスト効果は大きくなる。日本では欧米ほどではないが、人手不足により人件費が上昇し始めており、将来的にはより深刻化することが予想される。そういったことを見据えて今のうちから普及を図るという点からも、CLTの利用意義がある。	